令和5年度特色検査　問2　解説

(ｱ)　あ　～　う　にあてはまるものを選ぶと以下のようになる。

・あ　に関して…空欄の前に「船頭酔うて」とあるので、酔うとどうなるかを考える。適切なのは「おぼつかな」。古文単語の「おぼつかなし」は現代語の「おぼつかない」。意味は①はっきりしない、②気がかりだ・不安だ・頼りない　など。酔った船頭の舵取りが不安だが、蛍見物の中、それもまた一興であるといった芭蕉の心境が感じられる。

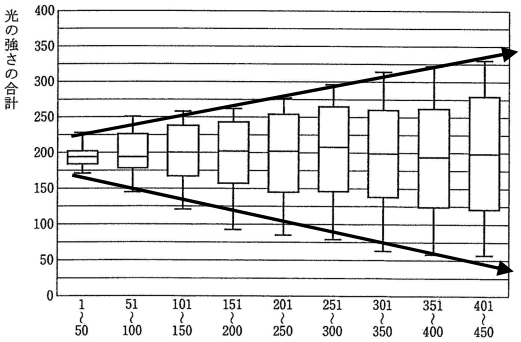
・い　に関して…空欄のあとに「吉野（の桜）」と目の前の「瀬田の蛍」を「二重写しにしており」とあり、また瀬田を訪れる前に吉野の桜を見て　いることが本文からわかる。よって吉野の桜が「目に残る」が適切。この時点で選択肢6が正解だと判断できる。

・う　に関して…「蛍狩りの光景」に注目。「ほたるよぶ　よこ顔過る　ほたる哉」は、蛍狩りでほたるをよんでいる横顔を、呼ばれたのではない別のほたるが通り過ぎていくという、次から次と飛んでくる蛍の様子を表しているので、この句が適切。

(ｲ)　「後退前線」は東京湾側から内陸に向かって移動している。すると昭和5～10年頃の後退前線の候補はＡかＢになるが、文章Ｉの 19、20 行目から、「十八世紀末には浅草からホタルが姿を消していた」ことが読み取れるので、Ｂのほうが適切。

次に昭和30年の後退前線について、図1と照らし合わせて考える。後退前線が、図1の昭和35年のものよりも西にあるEはあてはまらないので、候補はＣとＤの2つ。Ｃは直線的だが、ここで昭和25年、35年、そしてＢの後退前線の共通点に注目。どれも立川から新宿を結ぶ JR の路線に重なる部分が西側に向いてとがっているのがわかる。これには、鉄道沿線には人が多く住んでおり、蛍の生息環境の破壊が周囲より早く進んでいるという背景があると考えられる。よって同じように西にとがっているＤの後退前線が適切だと言える。よってＢとＤを組み合わせた選択肢5が正解。

(ｳ)　箱ひげ図の縦軸について、光の強さの合計が０のときは、すべてのホタルが全く発光しておらず、光の強さの合計が400のときは、すべてのホタルが最も強い光を発していることになる。つまり、最大値の 400 や最小値の０に近いほど、多くのホタルが同じタイミングで発光しているといえ、逆に中央の 200 に近いときは、ホタルの発光が個体ごとにまばらであったといえる。



回数を重ねるにつれて、箱ひげ図の範囲と四分位範囲がともに大きくなっていることから、まわりのホタルと同調して、同じタイミングで光を発している傾向が強くなっていることがわかる。

したがって、これらの条件をみたす選択肢は1である。

(ｴ)　本文 8～12 行目より、ゲンジボタルの幼虫が生活できる場所は次の条件が必要である。

・下に隙間のある石(浮石)が必要。

・流されない程度に流れが緩く、浮石の下にある砂や泥を流し去ってくれるような場所。

このことから、石の下に隙間があり、できるだけ水の流れが緩い条件を満たす図は C となる。

また、カワニナの生息地域については本文の第3段落(14 行目以降)に、「もっと流れの緩い泥底のところから、流れの速い瀬の部分までかなり広い場所を利用している」とあるから、A～D すべてが生息範囲であると考えられる。したがって、正しい選択肢は6となる。

(ｵ)　選択肢1～5が、それぞれ [　　] にあてはまるかどうか確認すると以下のようになる。

・選択肢1…文章Ⅰの下から2番目の段落、および文章Ⅱから、環境が整っていなければホタルは生息できないことがわかるので、正しい。

・選択肢2…文章Ⅱにあるので正しい。ホタルの生息環境がより限定的な点は、(ｴ)の問題にも関わる。

・選択肢3…文章Ⅰの「中略」以降の段落に、環境の変化によって次第にホタルの生息地が後退していったことが書かれている。よって正しい。

・選択肢4…「汚濁した水質を改善することができれば再び繁殖することがわかった」の部分が誤り。どうすれば再び繁殖するか、その点については文章ⅠにもⅡにも書かれていない。むしろ文章を通じて、どこか 1 箇所でもおかしくなると蛍は生息できないことが読み取れるので、「汚濁した水質を改善する」だけでは繁殖しないと判断できる。

・選択肢5…文章Ⅰの最後の段落で、ホタルの生息環境の回復や保全を図る試みがなされているが、ホタルを周囲の生態系の一部ととらえることが大切だということが述べられている。よって正しい。

よって、ふさわしくないものとして、選択肢4が正解。